

第 16 回日本薬局学会学術総会

ポスター発表

特定薬剤管理指導加算 2 算定患者への薬剤師の服用期間中のフォローアップの内容分析

総合メディカル（株） そうごう薬局 天神中央店

足立 昇平

【目的】2020 年 4 月に特定薬剤管理指導加算 2 が新設され、がん治療に係る病院と連携をとった上で、保険薬剤師が外来がん薬物治療患者の服薬期間中に電話等によるフォローアップを行い、得た情報を病院に提供することが評価された。今回、そうごう薬局天神中央店で特定薬剤管理指導加算 2 を算定した事例について、フォローアップした内容を調査・分析したため報告する。

【方法】2020 年 4 月から 2021 年 8 月までに特定薬剤管理指導加算 2 を算定した患者の服薬情報提供書を調査した。その上で、フォローアップに至った経緯やフォローアップした内容について、予め設定した 11 項目について分類し、分析した。

【結果】期間中に特定薬剤管理指導加算 2 を算定した患者は 100 名、算定件数は 319 件、フォローアップ報告件数は 319 件であった。また、報告内容の内訳としては①緊急入院 0 件、②予定外受診 1 件、③抗がん剤休薬 0 件、④支持療法の処方提案（反映あり）33 件、⑤支持療法の処方提案（反映無し）24 件、⑥支持療法の使用法指導 107 件、⑦対処療法指導・不安軽減 114 件、⑧ノンアドヒアランス回避 4 件、⑨病院薬局相互確認 2 件、⑩特別な問題なく経過観察 94 件、⑪その他 2 件であった。処方提案した支持療法は、便秘・下痢に関するものが最も多く（19 件）、次いで皮膚障害（10 件）、悪心（9 件）であった。支持療法の使用法を指導した副作用についても、最も多かったのが便秘・下痢（37 件）、次いで皮膚障害（35 件）、悪心（14 件）であった。

【考察】今回の調査では、フォローアップの 75%において薬剤師から何らかの介入が行われており、その中でも支持療法の処方提案や使用法の指導、がん患者が抱える不安軽減に貢献したものが多くことが明らかとなった。これは、保険薬剤師であっても外来がん治療に関する知識や技術を習得し、病院と適切に連携することで、外来がん治療患者の QOL 維持に貢献できることを示唆していると考えられる。